



# 学校だより

6月号

第427号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

読書で、子どもの学びを豊かに・・・

校長 金森 孝子

5月18日(水)と25日(水)朝、学校図書館ボランティア「ままぼっけ」さんによる、読み聞かせが行われました。1年、2年、5・6組の各教室で、5名のボランティアさんが、自身で選んでくださった絵本を手に、優しく語り掛けるように読んでくださいました。子どもたちは、絵本の世界に入り込み、じっと聞き入ったり、思わず声を出したりして、思い思いにお話を楽しんでいました。「また、読んでください。」とお礼も聞こえてきます。あるクラスでは、感想を発表し合っていました。「プレツェルは、胴が長いから、穴に落ちたグレタを助けてあげた。優しいなと思いました。」コロナ禍で2年間ほとんど実施することができなかった読み聞かせですが、今年度、ボランティアの方々のご協力を得ながら増やしていく計画を立てています。一冊の本から一人一人の想像が広がり、心が動かされ、余韻を友達と共に味わう、、、優しさや安心感の生まれるその時間と空間が私は大好きです。今年度、時間や回数の制約はありますが、本や本を読んでくださる人との出会いを大切にしながら、全学年で読み聞かせを実施することを考えています。



5月18日の読み聞かせの紹介

昨年度「学校のお気に入りの場所」のアンケートを実施したところ、山田小学校では第1位が「学校図書館」となりました。本当に素晴らしいことです。子どもたちはそれぞれに好きなジャンルがあり、絵本や童話、小説などの物語・フィクションが好きな子から、図鑑、科学的な読み物などのノンフィクションを好む子、伝記、歴史、詩、統計などに興味がある子など、本当に読む本は様々です。私は、教員の頃、司書教諭を数年間担当していました。朝読、ボランティアの方々による読み聞かせの運営、本や図書資料の入れ替えや配架、コーナーづくりなど、学校図書館全体を整備するとても楽しいやりの仕事でした。(その頃は、まだ、横浜市には学校司書は配置されていませんでした。)クラス担任としても、本で子どもたちの学びを作っていこうという思いをもっていました。子どもが本との出会いを通して変化し成長していく姿を何度も目にしていたからです。校長になってからも、本と子どもたちをつなげたい、とさまざまな機会を模索しました。卒業式では、式辞の中に私が大切にしている本の言葉を入れました。令和2年度は「星の王子様」、3年度は「赤毛のアン」。年1回ですが、テレビ朝会で本の読み聞かせもしています。しかし、「GIGAスクール構想」が昨年スタートしたことから、学校での本をめぐる環境や読書活動も、今後、大きな変化を迎えるのではないかと考えるようになりました。私自身、電子書籍を読み、オーディオブックを聞き、以前より格段に読書環境が豊かになっています。将来、デジタル読書も学校に取り入れられるようになるのではないかと、学習にも取り入れていくことが必要なのでは・・・と。

この4月から村山司書が着任し、山田小学校の学校図書館は新たなスタートを切りました。4月はわずか4日間で204冊の貸し出しがあったそうです。レインボーフレンズが登場する「図書館だより」の内容もとても充実しています。かつて「図書室」と呼ばれ、本が集められた教室は、現在、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能をもつ「学校図書館」として位置づけられるようになりました。読書活動はもとより、児童の主体的、意欲的な学習活動を支え、情報活用能力を育む場所として機能の充実を図りながら、子どもたちの学びが一層豊かになるように働きかけていきたいと思っています。

この4月から村山司書が着任し、山田小学校の学校図書館は新たなスタートを切りました。4月はわずか4日間で204冊の貸し出しがあったそうです。レインボーフレンズが登場する「図書館だより」の内容もとても充実しています。かつて「図書室」と呼ばれ、本が集められた教室は、現在、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能をもつ「学校図書館」として位置づけられるようになりました。読書活動はもとより、児童の主体的、意欲的な学習活動を支え、情報活用能力を育む場所として機能の充実を図りながら、子どもたちの学びが一層豊かになるように働きかけていきたいと思っています。



「ままぼっけ」さんによる掲示板飾り